

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体事業所の「理念」を基本に、事業所独自の「ひとりひとりの人間性」を大切に「誓い」を作り入居者の生活を支援している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時には「理念」と「誓い」を職員全員で唱和し「誓い」に基づいた入居者への支援を話し合い、日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所の「誓い」を玄関ホールや目に付きやすい場所に掲示して、来訪者や職員が把握できるようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の人や近くの畑で農作業されている方々とは顔なじみで、挨拶したり、言葉を交わしている。庭で「お茶会」を開き、近所の方々にもチラシを配り声掛けを行い交流を深めている。		今後も「お茶会」を開き、たくさんの方々に立ち寄っていただけるよう、内容を充実させていきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の夏祭りに参加したり、文化祭には入居者や職員の作品を出展し、見に行っている。地域の廃品回収に牛乳パックを入居者と持っていったり清掃活動に職員は参加している。また、地区の老人会の新年会には職員が出向き演芸を披露した。		地域の広報などチェックして地域の活動に参加したり積極的に地域の方々と交流していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の老人クラブの新年会に職員が参加し、踊りの出し物を披露した。年2回の母体事業所のグランドゴルフ大会にも利用者、職員が参加している。</p>	<p>地域の方々に認知症介護についての介護教室や気軽に相談できる窓口を開設するなど行って行きたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価の意義についてミーティングで説明し理解している。改善点については職員全員で話し合い出来ることから実施している。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では地域の方々や入居者の家族にグループホームの日常や取り組みなどを報告し、意見や情報を頂き、実践できるものについては検討して行動に移し報告している。</p>	<p>入居者の運営推進会議の参加も今後検討したい</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>職員は市町村の担当者と必要時に連絡相談を行っている。身体拘束研究会、虐待研究会、認定審査会などに参加し、市町村合同でサービスの質の向上に努めている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>ミーティングで研修を行ったり成年後見制度の研修に参加し他職員と研修報告し、共に学んでいる。家族会では成年後見制度について説明を行った。また、入居者の家族で成年後見制度を利用された方がおられ裁判所の調査面接に立ち合った。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ミーティングで「身体拘束と高齢者虐待について」管理者より学習会が行われ職員の理解遵守に努めた。「身体拘束を行いません」など厳守すべき事項を職員の目に付き易い所に掲示し啓発に努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居の際は重要事項説明書により本人と家族に十分な説明を行い納得していただいた上で契約を結んでいる。解約の際も家族に対し説明を行い納得を図っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員は入居者の声にいつも耳を傾け聞いている。意見が出た場合はミーティングで改善策を話し合い全事業所へ公表している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に一度、広報紙「杜のこずえ」を家族に送付し入居者の日々の暮らしや職員の異動についてなども報告している。入居者の個々の状況については電話や面会時に報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関ホールに苦情ポストを設置したり苦情受付のポスターを貼り啓発に努めている。また、家族が面会に来られた際に会話の中で傾聴したり家族会で意見を出してもらっている。</p>		<p>家族会を年に1～2回のペースで開催し交流の機会を作っていく</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングのなかで職員から意見や考えを聞き情報収集しながら判断している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>人員配置に余裕がある場合は、日勤と遅出者を2段階に分けて入居者の生活リズムに即した勤務調整を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>日頃からコミュニケーションを図り、意見や質問を出しやすい雰囲気づくりに努めている。止むを得ない理由を除き、解決策を話し合い離職の防止に努めている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用条件には性別、年齢の指定はしていない。福祉を志す方には幅広く間口を広げたくさんの個性を事業所の長所としている。また、職員が楽しく仕事ができるように、お互いを認めどんなことでも自由に言える雰囲気作りを心がけている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>普段から人権尊重については話し合っている。</p>		<p>連絡会や研修会に参加して皆で研修会など行っていく</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>母体事業所において毎月1回OTの勉強会が行われている。また研修参加を積極的に勧め研修報告を全職員に報告する機会を設けている。ミーティングでもミニ研修や研修報告の時間を設けている。</p>		<p>職員に研修参加を積極的に勧め、個々のスキルアップに努める</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームの音楽会等に参加し、職員同士が交流し、情報交換できる機会作りを行っている。</p>		<p>今後も他事業所との交流に取り組んでいきたい</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>普段から仕事の前後や合間に職員に声掛けし話を聞くようにしている。また、互助会の親睦会や旅行で交流を行い話し易い雰囲気作りを心掛けている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>母体事業所にて人事評価制度を導入しており、職員の努力や実績により評価されるシステムを導入している。年2回自己評価、上司評価を行い職員のやる気につながるよう努めている。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居希望者には、まず家族と一緒に見学に来てもらったり、来れない場合は、職員が出向き事前の面談を充分に行っている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>グループホーム入居に至るまで家族の悩みや不安などを事前面談で充分に聞き取りを行っている。また、電話でこまめに連絡を取り合っている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>抱えている悩みや思いを十分に傾聴して、本人や家族にとってどんなサービスが必要なのか見極め提案し対応している。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者には事前に見学してもらい十分な説明を行い本人・家族が希望すれば体験入居してもらっている。家族と相談しながら馴染みの家具を持ってきてもらい居室の雰囲気作りを行っている。また、他入居者との関わりがスムーズにいくよう職員が仲介し声掛けを行っている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「入居者は人生の先輩」という気持ちを常に忘れず家事など一緒にしながら昔話を聞いたり、相談事をしたり時には擬似家族のような関係で対応したり「持ちつ持たれつ」の関係を心掛けている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えている関係を築いている	以前住んでいた界隈を家族と職員も一緒にドライブして思い出してもらったり、親戚の方を訪ね喜んでいただいた。また、親戚や知人が面会に来られたときは、職員もお茶を出しながら会話に参加して話を盛り上げている。		「私の夢」と題し、本人の願いや行ってみたいところを聞いて実行していきたい
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が面会に来られたときは、楽しい雰囲気作りを心掛け、本人との会話が途切れないよう、時には職員も一緒に会話に入っている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時は入居者と家族の時間を優先しているが、職員は必ず家族に声を掛け近況報告を行って本人の状態を家族と一緒に共有し馴染みの関係を心掛けている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者個々の性格などを把握し食堂のテーブル席を考慮したり、自発的な交流はもとより全員が交わるよう職員は声掛けに努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、入居されていた関わりは大切にし、必要に応じて訪問などしている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人、家族の思いをできるだけ詳しく聞き取るよう努力している。また、思いや意向が見つければ介護記録に記載したり、ミーティングで情報を共有し把握に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴の把握に努め、それに合わせた余暇活動の提供を行っている。本人の過去に共感し自尊心を大切にしている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの日々の暮らしは介護記録に記入し、ミーティング時にカンファレンスを行い総合的に職員が把握できるよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりがより快適な生活が送れるよう本人と家族の要望を多く聞きだし、ケアプランに取り入れるよう努めている		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しと入居者の状況が変化した時は、その都度見直して現状にあった介護計画に変更している		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の毎日の様子は個々の介護記録や健康排泄チェック表に記入している。また、入居者の状態変化や職員の気付いた事は介護日誌や職員間の連絡ノートに記入し情報を共有しミーティングでも話し合っている		記録物が多いので簡素化を検討したい
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	健康状態が悪くなった利用者は、母体の施設や病院に移ることも検討し、家族に助言・相談している。デイサービスや小規模多機能へ訪問し、体操やレクリエーションをすることもあ		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察署や消防署とは交通安全キャンペーンや防災訓練で関わりをもっている。また、地区の文化祭には職員や入居者の作品を出展している。		地元の小学生との交流を今年度はもてなかったが、今後も続けていきたい
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向があれば必要に応じて他のサービスの紹介をするなど相談にのっている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じ地域包括支援センターに連絡を取ったり、出向いて相談にのってもらっている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは密に連絡を取り合っており24時間体制で医療が受けられるよう医師、看護師との協力体制を確認している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎週1回、精神科医の回診があり入居者の様子を報告し、指示、助言をもらっている。また、受診の必要がある場合は、家族に連絡し対応している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の事業所との兼務の看護師がおり日常的に連絡相談をしている。夜間も医師に上申する前に連絡相談し、指示を受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入居者が入院した場合、環境の変化によるダメージを最小限にするため早期退院に向けソーシャルワーカーと連絡を取り合い情報を共有している。また、入院時はこまめに顔を見に行っている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人、家族の意向を大切に、かかりつけ医の定期往診時に状態を報告して指示を受けている。状態の変化については、その都度家族に連絡し共有している。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人にとってやすらかな終末期を迎えられるよう、家族の意向も尊重し今後の対応について家族かかりつけ医などと充分話し合いを行って全職員で援助している。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居の場合、できる限り事前面接などを行い情報収集するようにしている。また、本人が納得するような説明を行っていく。退去の場合、情報提供を持って必要な情報を提供している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者のプライドを尊重し、声掛けや対応には意識して行うよう注意している。個人情報の保護については全職員で注意を払っている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者個々のペースに合わせて声掛けしている。時には方言を使って本人の思いや希望の表出に努めている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日常生活の流れはあるが、決してそれを無理強いすることなく、食事、起床、就寝などは各人のペースを大切にしている。何をしたいかわからない入居者には、それとなく提案し希望を聞いている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行事や外出の時は前日から入居者と一緒に服選びを行ったり、日頃も着る人の個性や意思を尊重しおしゃれに興味をもってもらっている。散髪は月に2回の訪問理容サービスを本人の希望に応じて利用されている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・夕食は母体事業所厨房に委託している為、配膳と後片付けを一緒に行っている。昼食作りは入居者個々のできることから手伝ってもらい食べる楽しみや喜びにつながるよう職員も一緒に和やかな雰囲気を中心掛し食事をしている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者に食べたい料理を聞きながら昼食の献立作りをしている。また、栄養バランス、味、盛り付け、季節感など工夫して入居者の満足を食事以外の嗜好も含め得られるようにしている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し入居者個々の排泄パターンの把握に努めている。夜間オムツの人も日中は布オムツにパッドを使用し声掛け誘導を行いトイレでの排泄を心掛けている。		入居者全員、日中は布パンツで生活していただくために、個々の排泄パターンや尿意、便意のサインを見逃さないようトイレの声掛けや誘導をしていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の体調を考えながら、入浴の声掛けをしている。一人ひとりのペースに合わせて希望や順番を聞いたり、入浴剤を入れるなどしている。また、入浴されない方には、フットバスを使って足浴を行っている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息や就寝の時間に決まりや制限はしていない。個々の生活習慣やその時の体調などに応じて居室でベッド臥床されたり食堂ソファで横になったり思い思いに過ごしていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各入居者の持てる力に合わせ、出来る家事や作業をお願いしている。また、個別の援助など趣味活動の提供や集団でのレクリエーション活動を行って日々の楽しみごとや気晴らしに心掛けている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族より預り、職員の方でほとんど管理している。外出行事の時など入居者の力量に応じてさりげなく援助している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買物に一緒に行ったり、ドライブや外食にも出かけている。天気の良い日は、庭に出たり、散歩に行くようにしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年2回、春と秋に高速道路を使ったバスハイクを行っている。また、季節に合わせたドライブも行っている。「私の夢」というプランを計画し入居者や家族の希望を聞いて、それに応じた個別の外出も行っている。		バスハイクなど外出行事をする際、家族にも声掛けを行い一緒に参加していただけるようにしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族や知人に電話できるようにしている。手紙が届いたときは、個々の能力に応じ返事を書いていただいたり、職員が代筆し名前だけでも書いてもらっている。また、近況の写真を同封することもある。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の時間や曜日などは特に制限していない。いつでも気軽に面会に来ていただけるように職員一同笑顔で明るく対応するよう心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害についてや「具体的な行為」については事務所の掲示物やミーティングで啓発に努めている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は一般家庭と同じような感覚(防犯)で施錠しているが、11時から13時は開錠している。他の時間帯は入居者が申し出れば開錠している。居室や食堂は施錠しておらず自由に庭へ出入りできる。		今後も安全面を考慮しながら、玄関開錠の時間を検討していきたい
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	食堂などに一律に過ごすのではなく、入居者の過ごしやすい場所で過ごしてもらい、職員間で連携をとりながら所在確認を行っている。夜間はこまめに巡視を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物や縫い針などは職員が管理している。入居者がその物品を必要としているときは、傍らで見守りながら使用していただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒や窒息の危険がある方は、職員が近位で見守りや声掛けを行っている。誤薬をしないために与薬の際は、職員2名で薬の確認を行い呼称と復唱をしている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時のマニュアルを事務所に掲示している。急変時の対応について看護師より研修を受けたり、対応のための書籍もすぐ手に取れる所に置いている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は消防署とも連携し年2回以上行っている。災害時のマニュアルがあり事務所に掲示して、いつでも見られるようになっている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会や電話連絡時には、近況報告を行っている。体調不良や日常生活動作の低下など見られてきた場合は、早期に家族に連絡し、今後について話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い普段と変化のある場合などは、日中も再計測、様子観察を行っている。他にも食事、排泄、顔色など全員の様子に留意し異変の早期発見に努めている職員は申し送りや記録で情報を共有し、異変時には看護師や医師に速やかに連絡し指示を受けている		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容、用量、効能は一覧表にしまとめており、いつでも見られるようにしている。誤薬防止の為、与薬の時は二人の職員で確認し呼称を行っている。それぞれの変化に留意し、看護師や医師に報告し薬の調整をお願いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操や歩行、エアロバイクなど、それぞれに応じた運動ができるような働きかけや、腹部のマッサージも行っている。10時過ぎと15時過ぎには必ずお茶を出すようにしており、食事中の水分摂取も意識して促している。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりに口腔ケアの声かけをし、誘導を行いそれぞれに応じて、歯ブラシを使っていただいたり、介助をして口腔内の清潔保持に努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食チェック表に記入し、水分制限や摂取が少ない入居者については摂取した水分量を記入し調整している。また、入居者の状態に合わせ、食事の形態や量を調整している。献立は朝・夕食は母体事業所の栄養士が作り、昼食は栄養のバランスを考えて作成し、偏りが無いよう考慮している		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルがあり、それに沿って対応している。手洗い、うがいの励行を徹底して行い、椅子、手すり、床の消毒は毎晩行っている。トイレ掃除も次亜塩素酸を用いて行っている。インフルエンザ予防接種は毎年、入居者、職員全員が受けている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁などの調理用具は使用前にアルコールスプレーで消毒している。まな板、ふきんは毎日塩素漂白している。食材は原産地や新鮮な物を吟味して調達し新鮮なうちに使い切るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	通りに面した庭からも出入りできるように、スロープをつけて入り口を設け開放的にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や強い日差しは窓やカーテンの開閉で調整している。CDやテレビの音量の調整を配慮して行っている。玄関の掲示物や飾りなどは季節に合ったものにしたり、食堂や廊下には行事の時の写真を掲示している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にはソファや和室があり、廊下にもテーブルと椅子を設置して、入居者が思い思いの場所で独りになったり集まったりして過ごされている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が自宅で使い慣れた家具などを持ち込んでいただくよう家族にお願いしている。家族との写真や家族からの絵手紙、入居者本人の作品を飾ったり、居心地の良い落ち着ける空間作りに努めている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝全居室の換気を必ず行い、日中も必要に応じて窓を開けたり換気扇をつけるなどして、においやよどみの除去に努めている。温度計と湿度計を設置し、入居者の衣類や冷暖房の調整をこまめに行っている。冬期の空気乾燥時は、湿度が50%以下にならないよう加湿器を使用したり室内に洗濯物を干すなどしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差のない造りになっており、食堂、居室、廊下、トイレ、浴室など手すりを取り付けている。また、居室のトイレや浴室は車椅子でも利用できるようになっている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口には入居者の名前と顔写真を掛け、入居者手作りののれん(居室ごとに柄が違う)を掛けている。食堂のトイレには大きく「トイレ」と表示し、また、今日の日付も大きく表示している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には桜やキンカンの木を植え、四季折々の花や野菜も作っている。天気の良い日は、庭に出て日光浴や草取りしたり、お茶を飲んだりしている。庭で収穫した野菜は昼食の食材にしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)